

# 令和4年度 第17回全国高校生短歌大会（短歌甲子園2022）競技結果について

## 1 大会概要

### (1) 開催趣旨について

- 近代短歌に新しい世界を切り開いた青春の歌人石川啄木を顕彰するとともに、啄木にふさわしく若い世代の短歌づくりを振興するため、全国の高校生を対象とした短歌大会を開催。石川啄木生誕120周年記念事業として平成18年度（2006年）に第1回大会を開催した。
- 令和元年度（短歌甲子園2019）以来3年ぶりの通常開催（盛岡市内に参加者・審査員が参集する形式）により大会を実施した。

※令和2年度は書面開催、令和3年度はオンライン（Zoom）開催により実施

### (2) 大会名称及び主催者等

ア 大会名称 「第17回全国高校生短歌大会」 通称「短歌甲子園2022」

イ 主催者等 主催：全国高校生短歌大会実行委員会（会長（盛岡市長）谷藤 裕明）  
共催：岩手日報社

## 2 大会日時及び会場

(1) 大会日時 令和4年7月27日（水）～29日（金）

(2) 会場 姫神ホール（開会式）及び盛岡劇場（競技・閉会式）

## 3 団体戦出場校

別紙「全国大会出場校一覧」のとおり

## 4 競技結果

団体戦	優勝	高田高等学校（三重県） ○3年 長崎 桃子 嬰兒の名の由縁たれ 幼子の丸き瞳は 風を映す ○3年 藤田 沙羅 震えつつぎゅっと掴めば 君の手も脈も丸ごと 私の熱だ ○3年 岸本 花梨 差し込んだ西日が窓を貫いて あなたの肩の丸みに とける
	準優勝	岩手県立盛岡第一高等学校 ○2年 伊藤 蓮人 少年をうみねこ丸は連れていく おもいでのパン うみねこのパン ○3年 大崎 美優 野球だけしてれば かっこいいのにさ 君の丸坊主をじっと見て ○1年 野場 希海 正義とは 「最大多数の最大幸福」 そんなの丸きりわかりたくなくて

	第三位	<p>仙台市立仙台高等学校（宮城県）</p> <p>○3年 阿部 優 我が父の 立派な食卓を整え 残り物でもいいのにと云ふ</p> <p>○3年 佐々木 遥奈 盂蘭盆会 畳に残る温もりを迎れば 甥のかたちが分かる</p> <p>○3年 菅本 勇馬 命とはどういうものかを考える 波紋残して沈む アメンボ</p> <p>岩手県立盛岡第三高等学校</p> <p>○2年 嶋 栞 残すのがいけないことは分かる けど ヨーグルトに卵焼きは違う</p> <p>○2年 水上 桃果 慣れない街道進むあなたに 追いつけない手を握った 残る爪跡</p> <p>○2年 岩崎 野乃花 明け方の呼吸はいつも苦しくて 残月を背に 割れた指輪を</p>
個人戦	最優秀作品賞	岩手県立盛岡第一高等学校 2年 伊藤 蓮人 古本に折り目の付いた一ページ この一文に 二人は惚れた
	優秀作品賞	神奈川県立光陵高等学校 3年 山田 千鶴 隣席の 君の寝息に気付いたら ミュートしていく授業、雨の音
特別賞	審査員特別賞	弘前学院聖愛高等学校
	話題賞	星野高等学校
	石川啄木賞	神奈川県立光陵高等学校 3年 小野 愛加 心だけ十八歳に追いつかず 「自立」の蔓延る オトナ禍にいる
	話題作品賞	筑波大学附属高等学校 2年 永井 敦也 不燃ゴミ銀河は過密 誇り高く 形の崩れた安楽椅子あり 高田高等学校 3年 長崎 桃子 女性として生きる器を与えられ 樹形図の外で 少女はねむる 宮城県気仙沼高等学校 3年 佐藤 日和 思い出の海はそんなに青くない 災禍に転がる カップヌードル
	特別審査員 小島ゆかり賞	仙台市立仙台高校 3年 菅本 勇馬 命とはどういうものかを考える 波紋残して沈む アメンボ